

哲学堂公園及び哲学堂公園周辺都市観光拠点整備計画

序章. 計画策定の趣旨

1. 目的

中野区では、哲学堂公園・旧野方配水塔の歴史的・文化的価値を高め、これらを核とする都市観光拠点の形成に向けて「哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針」を平成27年6月に策定し、また、本年3月に改定した「中野区基本構想」及び、4月策定の「新しい中野をつくる10か年計画（第3次）」において、10年後に実現するまちの姿として“哲学堂公園をはじめとする固有の歴史や文化が観光資源となり、来街者が中野のまちを周遊しています”と方向付けた。

本計画は、それらを踏まえて、哲学堂公園周辺の歴史・文化の価値・魅力を磨き、より多くの来街者を集める都市観光拠点の形成を図るため、中野駅周辺から哲学堂公園エリアまでのまちづくりの方向性を定めるとともに、哲学堂公園及びみずのとう公園・旧野方配水塔の整備の具体的計画を定めることを目的とする。

2. 計画対象区域

右図に示す中野駅から哲学堂公園・旧野方配水塔周辺にかけての区域とする。

3. 目標年次

10年後の平成37年度（2025年度）を目標年次とする。

なお、平成32年（2020年）7月の東京オリンピック・パラリンピックまでに主たる整備の完了を目指す。



第1章. 哲学堂公園周辺まちづくり方針

1. まちづくりの目標

中野駅周辺から哲学堂公園エリアにかけて、哲学堂公園、みずのとう公園（旧野方配水塔）を中心に、蓮華寺境内（井上円了墓所）、中野通りのサクラ並木、新井薬師梅照院などの魅力のある地域資源を活用するとともに、哲学堂公園・旧野方配水塔の有する「近代化遺産」としての歴史的・文化的価値を保存・継承し、さらに一層磨いていく。これとともに、世界から来訪者が訪れる環境と受け入れ態勢を整備し、その魅力を情報発信して、歴史・文化を活かした都市観光拠点を形成する。

2. まちの将来像 「緑と歴史文化のなかで 心を磨く 哲学のまち・中野」

哲学堂公園は、物事の根本原理を追求する学問である哲学による日本人の新たな「ものの見方・考え方」が必要と考えていた井上円了により、哲学による精神修養の場として創設された。

物の豊かさから心の豊かさへの人々のニーズの変化や、国際紛争の激化、地球規模での異常気象など世界を取り巻く潮流のなかで、今まさに、精神的な充足感を求める心の時代に対応する「ものの見方・考え方や生き方」が求められており、哲学堂公園の存在価値は、今後ますます高まるものと考えられる。

このため、哲学堂公園を核として、歴史・文化と緑が感じられる落ちついた環境のなかで哲学と親しみ、哲学により心を養う文化が根づくまち＝「哲学のまち」を形成していく。

3. 中野駅周辺との対比を活かした魅力発信

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点である中野駅周辺と、歴史・文化・哲学にふれ、心の安寧を得る拠点である哲学堂公園エリアのコントラストを鮮明にすることによって、相互に引き立てあう関係を築き、「哲学のまち」をより魅力あるものとし中野の発信力を高めていく。

第2章. 都市観光拠点整備及び哲学堂公園エリア整備計画

1. 整備目標

歴史・文化を活かした都市観光拠点を形成するために、都市観光のアクセス拠点として賑わいの中心である中野駅、中核となる都市観光資源として哲学堂公園・旧野方配水塔を位置づけ、これらを結ぶルートの基本とした回廊を整備する。また、哲学堂公園エリアは、哲学堂公園、みずのとう公園（旧野方配水塔）を中心とした、魅力ある地域資源を活用して「哲学のまち」のコアを形成する。

2. 都市観光拠点整備

(1) まち歩き・回遊ルート＝「哲学の回廊」の整備

都市観光のアクセス拠点である中野駅周辺と哲学堂公園エリアを結びつけ、周辺の歴史・文化資源をネットワークするまち歩き・回遊ルート＝「哲学の回廊」を整備する。

「哲学の回廊」は、案内誘導の充実、モニュメントの設置、花木による演出など様々な工夫により「哲学のまち」を紹介し、人々を哲学堂公園へと導き、「哲学のまち」が色濃く感じられるような魅力づくりを行う。

(2) まち歩き・回遊の誘導

「哲学の回廊」を中心に多くの観光客などを呼び込み、まち歩き・回遊を誘導するための取り組みとして、案内誘導サインの整備、案内パンフレットの作成・配布、ウォークラリー等のイベント、まち歩き動画配信などを行う。

また、観光資源のボランティアガイドの育成し、まち歩き・回遊のバックアップを図る。

(3) 世界に向けた「哲学のまち・中野」の情報発信

インターネット、SNS等を活用した国内外に対する積極的な情報発信、多言語によるPRパンフレットやガイドマップの作製・配布による外国人対応、テレビ・雑誌等のメディア活用など、様々な手法を用いて哲学のまち・中野のPRを図る。

3. 哲学堂公園エリアの整備

(1) 将来の姿

哲学堂公園、みずのとう公園等の魅力が高まり、これと調和したうるおいのある落ち着いた住環境、土地利用が形成され、かつて風致地区に指定されていた優れた風致、景観が保全されている。

優れた歴史・文化資源を抱えるまちとして住民に愛着の心が生まれ、歴史・文化の都市観光の拠点として多くの来街者が訪れるまちとなっている。

(2) 土地利用方針

哲学堂公園、みずのとう公園、既存の歴史・文化資源を保全・活用するとともに、緑豊かな環境の維持・形成を図る。

中野通り、新青梅街道の幹線道路沿道は、緑豊かなゆとりある歩行者空間の創出、良好な街並みの誘導、住宅及びサービス施設等の複合的な土地利用の誘導を重点的に行う。

幹線道路の後背部は、ゆとりある敷地の維持、緑化の誘導等により、哲学堂公園などの歴史的資源と調和の取れた良好な居住環境の維持・形成を図る。

(3) 景観整備方針

哲学堂公園エリアは、哲学堂公園を中心に地域に根差した歴史的・文化的資源を活かし、これらの風致と調和した緑豊かな落ち着いた景観の維持・形成を図る。

旧野方配水塔の眺望保全とともに、かつての風致地区とされていた時代の武蔵野の原風景や、「哲学堂案内」の「哲学堂八景」のイメージを参考に景観改善に取り組む。

(4) 景観整備の手法

魅力ある景観の形成のために、地域のルール作りが不可欠となる。幹線道路沿道の複合的な土地利用や良好な居住空間の形成、新設道路沿道の用途地域のあり方など、基本的なルールは地区計画により定めることが考えられる。景観行政団体に移行する際には、景観法に基づく景観計画、景観協定などの手法を活用し、建築物の形態・色彩・意匠など、より細やかな規制を設けることで、緑豊かで落ち着いた景観形成を推進する。



第3章. 哲学堂公園整備計画

《哲学堂公園の価値・魅力》

- 哲学の概念を表した世界に類を見ない造園空間である（東京都名勝）
- グローバリズムの考え方や普遍的な生き方の指針が示されている
- 創設者井上円了の社会教育への想いが込められた精神修養的公園である

1. 整備の目標

井上円了が込めた思い・創設時の姿を復元することを基本として、世界に類を見ない哲学を表現した造園としての価値・魅力を磨くことにより、歴史・文化を活かした新時代の都市観光拠点の核を形成する。

2. 哲学堂公園の整備

(1) 哲学堂77場の整備

哲学堂77場は、東京都名勝に指定されている歴史的文化遺産として、「哲学堂公園保存管理計画」（平成24年3月策定）に基づき、古建築物群の修復、保全、活用、園内の景観保全及び眺望の確保を行う。

古建築物群は、井上円了による「哲学堂案内」及び「哲学堂公園保存管理計画」に基づき、精神修養の場とするために井上円了が創建した当時の姿に修復、保全する。

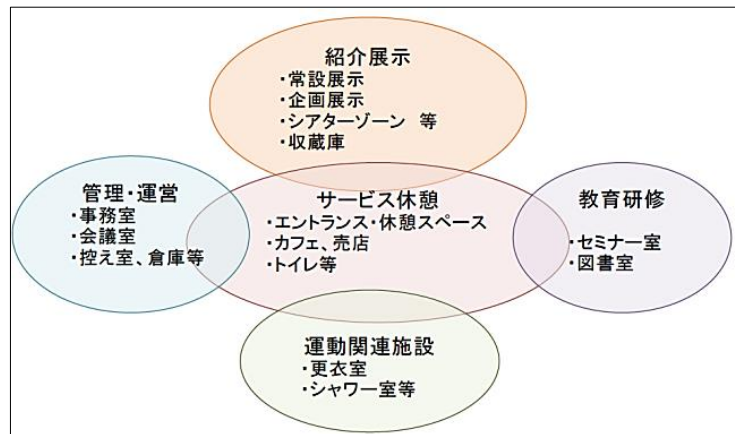
哲学の概念を見える形で表現しながら円了の思想を伝えていた、創建当時の景観を回復させることを基本とし、個々の古建築物の個性を引き立たせながらも全体の調和に配慮しながら保全する。

(2) 学習展示施設の整備

①整備の目的・ねらい

- 哲学堂公園に新たな魅力を付加する
- 市民に哲学の見方・考え方を分かりやすく伝える
- 哲学堂と井上円了の思想を分かりやすく伝える
- 歴史・文化に触れる機会を提供する

②導入する機能・内容



機能	内容
紹介展示	哲学堂公園及び井上円了の紹介・解説
教育研修	哲学講座・体験、小中学校教育との連携、地域の歴史文化の学習
サービス・休憩	軽食・休憩スペース グッズ・おみやげの販売
運動関連施設	受付、運動施設利用者便益
管理・運営	事務所機能、倉庫等

③学習展示施設の配置

学習展示施設の施設配置に関して、児童遊園、中野通り沿い（新青梅街道側）、中野通り沿い（下田橋付近）の3ケースを検討した。その結果、駐車場が隣接していること、文化財エリア・運動施設の両方にアクセスが良いこと、文化財エリアへの高質なアプローチ空間形成が可能であること、施工性・コスト面で有利なことなどの観点から、児童遊園へ配置することとした。

(3) 情報提供・ソフト方策

77場の内容を来園者に分かりやすく伝えるため、解説板を更新し、ガイドマップとの連携・多言語化・モバイル機器への対応等に取り組むとともに、ボランティアガイドの育成によるガイドの充実を図る。また、歴史民俗資料館やみずのとう公園などの周辺資源と連携したイベントや講座を行い、エリア一帯としての魅力向上を図る。

第4章. みずのとう公園整備計画

《旧野方配水塔の価値・魅力》

- 近代水道事業の歴史を示す歴史的価値の高い近代土木遺産である（国登録有形文化財）
- 特徴的な意匠が地域のシンボル、ランドマークとなっている

1. 整備目標

土木遺産、文化財としての真正性を確立し、旧野方配水塔の価値を活かした公園としての性格を強化するとともに、補助第26号線（中野通り）の整備と合わせた一体的な空間づくりや公園機能の拡充を図ることにより、哲

学堂公園との役割分担のもと連携して都市観光拠点の核を形成する。

(1) 旧野方配水塔の整備

修復を行う際は登録有形文化財としての外観に影響を及ぼさないことに配慮し、ランドマークとしての雄姿を保全していく。そのために、文化財としての保存及び活用方針を策定し、修復・整備を行う。

旧野方配水塔の魅力向上及び新たな魅力の創出として、配水塔に直接触れる、あるいは間近で見上げることのできる場所の整備、ライトアップによる演出等に取り組む。また、内部利用の可能性を検討する。

旧野方配水塔のランドマークとしての価値を保つため、特に中野通りの下田橋付近からの眺望を主眼に置いて、眺望を妨げる樹木の管理とともに、建物等の適切な規制・誘導を図る。

(2) 公園用地の拡張について

みずのとう公園の南側に隣接する都水道局用地を拡張用地として想定し、段階的な取得、整備を図る。都水道局用地の南側については、まちづくりにおける配水塔の眺望確保のための高さ制限などによる誘導を図る。長期的には、哲学堂公園との連携強化を推進するために必要な土地としての取得も視野に入れて検討していく。

(3) 情報提供・ソフト方策

配水塔が当時の住民の生活を支え、また上水道施設の普及に多大なる影響を与えた近代土木遺産であることをアピールするため、解説の充実及び情報発信を行う。また、文化財、ランドマークとしての魅力を伝えるため、哲学堂公園、歴史民俗資料館と連携して勉強会やイベントを開催する。

第5章. 事業化方策

1. 事業化方策

- ・「哲学のまち」実現に向け、庁内関係分野の横断的な連携を図る。
- ・地域の町会、自治会、商店会、事業者等と連携し、市民を挙げて都市観光拠点の形成に取り組む。
- ・哲学堂公園・井上円了の歴史的検証、学習展示施設の内容や哲学講座の実施など、哲学堂公園の事業は東洋大学との協働が不可欠であるため、より一層の協力体制による事業推進を図る。
- ・哲学堂公園エリアでは、住民と共にまちの課題と目指すべき将来像を共有し、協働によりまちづくりを検討し推進していくため、住民参加のまちづくり組織を立ち上げる。
- ・学習展示施設を哲学堂公園に新たな魅力を付加し、世界に発信するための中核施設とするため、哲学堂の風致と調和し、多くの人に親しまれるような魅力を持つ優れた施設整備を目指す。また、歴史民俗資料館との共同運営も視野に、博物館・展示施設経営の豊富な経験・知識を有する専門業者の活用を検討する。

2. 整備プログラム

区分	整備項目	前期 2016～2020年度					後期 2021～2025 年度
		2016	2017	2018	2019	2020	
哲学堂公園 周辺都市観光 拠点整備	・PRイベント開催、世界に向けた情報発信	■					
	・案内誘導サインの充実、まち歩き・回遊ルートの整備		■	■	■		
	・ボランティアガイドの育成		■	■	■		
哲学堂公園 の整備	・古建築物（四聖堂ほか）の修復、園路・広場、案内施設等再整備	■	■	■	■		
	・その他古建築物群、構造物等の修復					■	
	・ガイド育成講座の強化・人材育成		■	■	■		
学習展示施設 の整備	・学習展示施設的设计・整備		■	■	■		
みずのとう 公園の整備	・配水塔保存活用方針の策定・整備、公園の設計・整備		■	■	■		
哲学堂公園 エリアのまち づくり	・住民説明会の開催、まちづくり組織の立ち上げ検討	■					
	・まちづくり計画、ルール等検討		■	■	■		
	・まちづくりルールの決定（地区計画等）				■	■	

■ ハード整備 ■ ソフト施策 ▲ オリンピック・パラリンピック開催